

中学校国語 解答用紙

組

番号

氏名

1

六(例)					五(例)		三		一
う	優	人			ケ	無	り	相	社
こ	し	が	そ	私	し	言	す	手	会
と	い	減	れ	は	シ	化	る	の	生
が	言	つ	は	条	ヨ	が	態	話	活
学	葉	て	、	件	ン	進	度	を	の
校	と	き	友	一	の	む	を	正	機
生	し	て	達	が	機	こ	も	し	械
活	て	い	に	最	会	と	つ	く	化
の	外	る	対	も	と	で		理	と
充	面	か	し	重	経	、		解	都
実	に	ら	て	要	験	人		し	会
に	表	で	優	だ	が	間		た	化
は	れ	す	し	と	う	社		り	
欠	ま	。い	思	ば	わ	会		、	
か	す	温	声	い	わ	か		的	
せ	。か	か	ま	れ	ら	ら		確	二
ま	他	い	け	す	る	コ		に	4
せ	者	心	を	。		ミ		答	
ん	を	は	す			ユ		え	
。思	、	る				ニ		た	
						か			
						ら			
							四		
							1		

2

三	二				一	
それは、命のはかなさや季節の美しさを言葉で描いた文学作品が多く存在するからです。					選んだ記号	1

3

一	2
二	
三	1
四	
五	3
六	
七	4

4

一	とりていたり
二	もだえていると

5

四	三	二	一
1	そ	ア	1
	う	1	回覧
	に		
	し		
	て	イ	
五	い	4	
六年生に手を引かれて	た	ウ	疑い
	。だから		
	ぼく	1	
	は、	3	
	これ		
ま			
			こころみる

左の表には記入しないこと

学校名	
組	
番	

1	一	
	二	
	三	
	四	
	五	
	六	
2	一	
	二	
	三	
3	一	
	二	
	三	
4	一	
	二	
5	1	
	2	
	3	
	ア	
	イ	
	ウ	
	三	
	四	
	五	

採 点 概 要

1

設問一

抜き出すことを条件としているため、本文同様に抜き出しているもののみ正解とする。

設問二

1～4の中から複数選択しているものや、のように表記が異なるものは不可とする。

設問三

正答は、筆者が掲げる第二の条件「話の内容を正確に理解し、的確に答えたりする態度をもつこと」、「意見や考えの異なる人の話にも耳を傾ける心を大切にすること」のいずれかと同趣旨のものとする。ただし、「態度をもつ」、「大切にすること」等の記述がなくても可とする。三十字以内のため、二十五字程度は記述することが望ましい。

設問四

1～4の中から複数選択しているものや、のように表記が異なるものは不可とする。

設問五

正答は、本文中「機械化と都会化による無言化の方向は、わたしたちからコミュニケーションの機会と経験をつばおうとしている。」を踏まえたものとする。コミュニケーションの機会と経験が減少するという内容が含まれていれば可。ただし、「コミュニケーションの機会が減る。」「コミュニケーションの経験が少なくなる。」など「機会と経験」の内、どちらか一方のみを答えている場合も可とする。四十文字以内のため、三十字程度は記述することが望ましい。

なお、漢字の正誤・脱字・句読点等は、今後の指導に生かすこととし、誤りがあっても可とする。

あっても可とする。

設問六

設問の条件1～3の全てを満たしているもののみを正答とする。ただし、筆者が作品中で述べている三つの条件については、直接的でも間接的でも表現の仕方は問わないこととする。

なお、漢字の正誤・脱字・句読点等は、今後の指導に生かすこととし、誤りがあっても可とする。

(正答例)

(第一の条件を選択した例)

私は条件一が最も重要だと考えます。

それは、友達に対して優しい声かけをする人が減ってきているからです。温かい心は、優しい言葉として外面に表れます。他者を思うことが学校生活の充実に欠かせません。

(第二の条件を選択した例)

優先順位をつけるならば、迷わず条件二を選ぶ。

人間は言葉を通して互いの思いを伝え合う。他者の声に耳を傾け、言葉の裏に隠されている人の思いを汲み取ることこそ、私たちに必要なことだと考える。

(第三の条件を選択した例)

言葉を吟味して使うことが求められていると思います。

言葉といつて、古くから言葉には魂が宿ると言われてきました。言葉を大切にすることは他者を大切にすることにつながります。

2

設問一

正答は、1。主張の内容と根拠の関係について、「言葉本来の役割」がまだはつきりしていないため、のように表記が異なるものは不可とする。

設問一

次の三つの条件がそろって正答とする。

1～4の中から論点を選んでいくこと

その論点に対する自分の考えを書いていること

八〇字以上百字以内で書いていること

なお、漢字の正誤・脱字・句読点等は、今後の指導に生かすこととし、誤りがあっても可とする。

設問二

「それは」という主語に対して、理由を述べた形になるので、「」からです。」という書き方にする必要がある。

3

設問一

スピーチの原稿から分かる、話の特徴となっているため、2のみ正解とする。

～のように表記が異なるものは不可とする。

設問二

聞き手に対して、どのようなことを意図してもっているかであるため、1のみ正解とする。～のように表記が異なるものは不可とする。

設問三

話し手の意図をとらえたり、効果的な話し方をしたりするための聞き手の心がけが問われていることから、4のみ正解とする。～のように表記が異なるものは不可とする。

4

設問一

すべてひらがなであるため、「取りていたり」は不可とする。

設問一

別解なし

5

設問一

- 1 別解なし
- 2 送りがな「い」がない場合は不可とする。
- 3 別解なし

設問二

ア～ウ 別解なし

1～4の中から複数選択しているものや～のように表記が異なるものは不可とする。

設問三

後の文に「ぼくは」がないものは不可とする。
一つの文の中にある内容を二つに分けてとらえ、接続語の「だから」に続くように一文で書いていないものは誤答とする。

設問四

別解なし

1～4の中から複数選択しているものや～のように表記が異なるものは不可とする。

設問五

意味が変わらないようにすればよいので、「六年生から手を引かれて」「六年生によって手を引かれて」等、主語に対応した文になっていれば可とする。